



社会福祉法人

はるかだより

第 2 号

◆発行日：平成 30 年 7 月
 ◆発行者：社会福祉法人はるか
 〒740-0011
 山口県岩国市立石町 3 丁目 6-25
 TEL：0827-28-6085
 FAX：0827-28-6086
 HP アドレス：
<http://www.tsure20.co.jp/haruka/>
 E-mail：info@ha-ru-ka.jp

この一年

子どもたちが 教えてくれたこと

理事長 川村 宏司

社会福祉法人はるかは、平成 29 年 4 月に情島から移転し、あつという間に 1 年が過ぎました。平成 29 年 8 月に児童家庭支援センター「はるか」こどもの相談センター」を開設し、本年 4 月には、ライクホームはるか内に乳幼児ホームを設置、また山口市に自立援助ホーム「Re・HARUKA」を開設してまいりました。

この 1 年、ホームで子どもと職員が生活することで子どもたちが教えてくれたことがたくさんありました。例えば、職員が目の前で料理を作っている、「美味しかった?」「明日は、何が食べたい?」一緒にお風呂に入っていると、「今日、楽しかったこと、

ちょっと嫌だったこと」を優しく話してくれる。最初に、優しくなったのは子どもたちだったような気がします。

また、乳幼児ホームには、可愛い赤ちゃんがいます。ここには、子どもの泣き声はあっても職員には、笑顔と笑い声しかありません。「この子が元気に育ってくれば良い」と子どもの存在を大切に「子ども観」が生まれてきました。この子どもたちの笑い声と泣き声から学んだことは、いままで「大人の力」がほとんど子どもの育ちを決めていた施設の中で、この 1 年の子どもの日常のふれあいの中で、私たち大人の道案内として「生きる力、育つ力」が原点であることを教えてくれているように感じました。

「はるかこどもの相談センター」の活動では、子どものこと、家族のあ

り方等の多様な相談が飛び込んできます。その相談一つ一つに対して丁寧に対応してはいるものの、満足できる解決に至ったケースは少ない状況です。「どうしたいのか」「どう実現するのか」をしっかりとできるように、「他機関との信頼関係」と「チームの意識形成（コンセンサス）」を形成することで、地域の子育て拠点施設になれるように努力してまいります。

昨年度から生まれ変わり、まだまだ発展途上の法人ではあります。しかしながら、現在ありますもの、この間、物心両面で支援をいただきました県市の関係者の皆様や、ボランティア活動などを通じてお支えいただきました地域の皆様の力強いご支援の賜物と深く感謝申し上げます。また、法人の礎を築き、その後の発展に寄与された先人の方々や職員一同のためまぬ努力もあって、

法人理念の積極的な展開ができたものと思っております。

これからも、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



子どもの「おりこう」の

意味と親の意識

「おりこうにしないさい」は誰でも耳にするありふれた言葉だ。また親がしばしば無意識のうちに口にする伝統的ともいえる言葉でもある。例えば、イタリアでも「ファイ イル プラヴォ!」と同様の言葉が使われている。この「おりこうにしないさい」の意味を改めて具体的な場面に即して思いおこしてみよう。するとそれが親の側からの一方的な子どもへの命令の言葉であることが明らかになる。「おりこう」に込められた意味が実際には「じっとしていなさい」「動かないで」「触らないで」「汚さないで」「ちゃんと返事をしなさい」「大声を出さないで」「泣かないで」「邪魔をしないで」など禁止や命令の意味の語句として使用されていることが明白だからである。他方この言葉は、子どもにとっては具体的に意味

内容を伝えるものとはなっていない。それは子どもにはむしろ大人の唱えるうるさい空念仏に響いているかも知れない。

このように考えると、大人は子どもが生身の「生きもの」であることを忘れて、ただ彼らに大人に対して迷惑をかけない存在であることだけを望んでいるように思われてくる。しかし、例えば新生児に向かって一晩中眠り続け、決して泣かないでいるように期待できるだろうか。また決まった一定の時間おきの授乳だけで満足できる赤ちゃんが実際に存在するだろうか。新生児さえすでに生き物としての基本的な欲求や感情を持つている。そして事故の存在を主張して必死に頑張っている。

そうであれば「おりこうにする」とは、「目の前にいる具体的な現実の子ども」と「大人の頭の中だけに存在する模範的子ども」像との間の混同から生まれた「生きた子ども」への優しい配慮を欠く大人中心の言葉であることがはつきりしてくる。

子どもは普段は上機嫌で「おりこうさん」である。しかし場合によっては地団駄を踏んで泣き叫ぶ手に負

えない子どもにも変わりうる。それが子どもの自然の姿だ。いつも愛想笑いを浮かべ、素直な良い返事を親に返すわけではない。モンテッソーリは書いている。「こどもの我儘と反抗は創造的衝動と大人への愛との間の生命的葛藤の姿に外ならない。大人はそれを理解していない。」

子どもの行動には子どもの内面の目に見えない葛藤が反映されている。そして、子どもは理屈抜きに両親が大好きだ。いつも親のそばから離れたくない。身近にいていつも見守っていてほしい。ところがこのひたすらなる願いに対するお母さんの返事は、一般にそっけない。「今、遊べないわ、忙しいの」「お母さんは他にやる事があるの」「あなたは、もう、赤ちゃんではないでしょう」などと母親は子どもの心からの必死の願望を簡単に拒否してしまう。そして母親は貴重この上もない大事な機会を無意識のうちに逃してしまふことになる。モンテッソーリは述べている。「大人はこの神秘的な愛の傍らを、それと気づかずに通りすぎてしまふ。しっかり気をつけてほしい。いま、あなたを愛している小さな子どもは、す

ぐに成長して姿を消してしまふ。将来、誰がその子のようにあなたを愛するだろうか？ いったい誰がベツトに行く時に情愛をこめて（ここに一緒にいて）と、あなたに呼び掛けるだろうか。そうする代わりに、そっけなく（おやすみ）というだけではいだろうか？ いったい誰が、食事中、ただ見ていただけのために、そんなにも激しくあなたのそばにいたがるだろうか？ それなのに、私たちはその愛から身をまもうとしているのだ。だが、それと同じような愛はほかには見つけることはできないだろう。」

※モンテッソーリにおける子どもの「まごころ」と「からだ」

前之園幸一郎（日本モンテッソーリ協会会長
青山学院女子短期大学名誉教授）より抜粋

施設紹介

ライクホームはるか

ライクホームはるかとは、ホーム大地・大空（そら）・大海（うみ）・大河の4つのホームが、それぞれ特色を出しながら岩国市で2年目の夏を迎えようとしています。



今年度から大きく変わったのが、乳幼児さんの受け入れを始めたことです。赤ちゃんと接する経験の少ない職員もおり、おむつの交換や入浴を介助することに悪戦苦闘していますが、ふと見せてくれる赤ちゃんの笑顔に癒されて心がほっこりすることも増えました。

小中学生は岩国市での生活にもすっかり慣れ、習い事や部活動、自治会の清掃活動などを通じて、応援してくれる人たちの存在を感じられる日々を過ごしています。

高校生もアルバイトや、部活をしながら、勉強との両立をとっても頑張っています。進路に悩み、自分と向き合う姿は、ホームの小中学生にとって、よきお兄さん、お姉さんとしてのモデルとなってくれています。

今年もライクホームはるかの各ホームでは、子どもたちの目標や夢の応援、成長のエネルギーに繋がる、社会体験を積める場を設けて行こうと考えています。公共施設の利用や体験学習、キャンプなどの企画を子どもたちと一緒に考え、ともに成長していきたいと思えます。

ホームの職員一同、子どもたちの夢を応援できるよう、寄り添って参ります。

はるか こどもの相談センター

児童家庭支援センター「はるかこどもの相談センター」です。



当センターは平成29年8月に、桂町にありますこども館にこりの一室をお借りして開設しました。そして平成30年5月、これまで以上に様々な支援活動ができるようにと考え、山手町に移転しました。以前クリニックであったため室内は広く、プレイルームや面接室、心理室を備えております。

さて、当センターでは子ども、子育てに関する困りごとの相談に対応しています。相談内容も子どもの癇癪や登校渋り、その他子どもへのかかわり方など多岐にわたっています。

センターの職員には保育士や社会福祉士、臨床心理士といった専門職もいますので、専門的な視点からも助言を

行っています。またご家族が直接センターに相談をされに來られるだけではなく、岩国市や児童相談所などから紹介を受け、そのこと連携して関わっていただくこともあります。

さらにこのセンターでは地域の方々の交流の場を作るなど、相談だけではない子育て支援も行っています。昨年9月から行っている母親と赤ちゃんが一緒になつてのベビ योग教室は好評で、毎回定員を超える申し込みをいただいています。そして5月からは茶話会も始め、参加してくださったお母さん同士で色々情報交換されていました。

これからも子育てに思い悩まれている方がホッとできる場となるよう職員一同取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

自立援助ホーム Re..HARUKA

当ホームは今年度の4月に山口市にて開所しました。

自立援助ホームとは、児童養護施設などを退所したり、何らかの事情で家庭に居場所がなく就労による自立を目指す概ね15歳から20歳までの青少年

に、住む場所を提供して暮らし方の助言や援助、そして就学や就労の支援を行います。

「Re..HARUKA」の由来は Recover/Remake/Retry/Reborn/Realize といった頭文字の Re をとり、新しく何かに向かっていこうという意味を表現しています。

また、当ホームでは特に就学支援に重きを置いています。子どもたちの就労の選択肢を少しでも広げ、やりがいのある仕事に就けるためには高校卒業資格というものは必要最低限のものになつてきているからです。しっかりと就学を支援し、就労に結び付けていくよう支援を行っています。

現在の利用者は19才の男子2名、17才の女子1名です。それぞれが夢と希望を持ち、学校に通いながらアルバイト等を行い、自立に向けて頑張つて生活しています。



まだまだ、出発したばかりの「Restart」ですがあたりまえの生活、たしかな生活モデルといったそんな日常のある空間から子どもたちが Restart 出来るように支援していきたいらと、そして巣立って行っても気軽に相談したり、帰ってこれる場所になればと思っています。

地域小規模児童養護施設

グループホーム 歩

グループホーム歩は、平成27年7月、周防大島町久賀に一軒家を借りて開設いたしました。現在、高校生3名、中



学生2名、幼児1名の6名が地域の中で、温かく見守ってもらいながら生活しています。

大島からは、高校は岩国方面にも柳井・田布施方面にも通学ができるため、高校生はバスや電車を利用して、それぞれの学校に通学しています。毎日勉強に部活に励んでいます。時には悩んだり、つまずくこともあり、その際には、職員と一緒に悩み考えながら自立に向け頑張っています。中学生は小規模の学校のメリットを生かし、学校の先生方などでも相談できる環境の中で学校生活を送っています。友だちとも仲良く過ごし、何事にも積極的に行動し、自分の目標に向かって頑張っています。特に、部活動では県大会出場を決めるなどの活躍を見せており、地域の方のサポートも得ながら、地域の卓球クラブにも所属して技術の向上を目指しています。

幼児さんは保育園に通いはじめ、集団生活の場で日々様々なことを学びながら、少しずつ成長している姿を見せてくれています。

グループホーム歩では、これからも、当たり前の生活の中で、子どもたちと職員が気軽に日常の出来事を話しなが

ら笑顔で過ごし、自分の将来に目標を持って頑張っていけるように共に生活していきたいと思っています。

地域小規模児童養護施設

グループホーム いろ葉

この4月から、中学生1名、高校生4名、専門学校生1名の、男子6名で生活をスタートさせています。

中学生が中心のホームにおいて、子どもと大人の対等な関係づくりを目指し、何かあれば話し合うという時間を大事にしています。その中で、自分の役割を実感し、安心感を持てるような環境づくりを心掛けています。今では、お互いに気遣いができるような雰囲気になってきました。

現在、高校3年生が2人おり、進路を決める時期となっています。中学生に特化しているのがある葉の特徴の一つでもあり、様々な体験を通してそれぞれが将来像を描けるようなサポートを目指しています。そして、失敗した時には共に考え、成長が見られた時には共に喜べる存在でいたいと考えています。

また、5月には転居し、生活も一変しました。新しい地域においては、自



治会の清掃活動にも積極的に参加し、いろ葉の存在も知ってもらえるようになりました。今ではご近所の方に声を掛けて頂いたり、野菜を分けていただいたりと、地域の一員として、認めただけのまですなりました。

いろいろな場面、場所で、子ども一人ひとりが自分の存在価値を実感する体験をし、地域の中で成長することを目指していきたいと考えています。いろいろな人に守られているという安心感を子どもが持てるよう、しっかりと向き合っていきたいです。



新人職員紹介

廣津 清香

昨年 8 月よりはるかこどもの相談センターで相談員として勤務させていただくことになり、12 月からはライクホームはるかで事務をしております。

結婚を機に教職を離れ、長い間東京で専業主婦として過ごしていましたが、今回主人の転職を機に地元岩国に戻ることとなり、縁あってこちらでお世話になることになりました。久々の働くということに不安はありましたが、はるかのかの可愛い子どもたちや優しい職員の方々に助けられ、日々楽しく過ごしております。

初めての事務仕事でご迷惑をおかけすることが多々あると思いますが、職員の皆さんにとって心地よい職場となるようお手伝いができればと思っております。どうぞよろしくお願ひします。

新谷 敏郎

みなさんはじめまして。
このたび採用いただきました新谷と申します。

私は県内の児童養護施設にて児童指導員として採用された後、児童発達支援センター、相談支援事業所を経て、再び児童養護施設にて里親支援専門相談員を 3 月までしておりました。

縁あってこの 4 月より里親支援専門相談員としてライクホームはるかに着任いたしました。どうぞよろしくお願ひいたします。

いま里親制度は社会的養護の柱組みの中で大きく変わろうとしており、私たち相談員はそれに合わせてこれまで以上に柔軟に対応することが求められています。既成の概念にとらわれることなく、柔軟な発想や視点を持って活動したいと考えています。

里親制度に関するご質問、お問い合わせは新谷にご用命くださいませ。

ホーム大地 高村 葵

今年度よりライクホームはるかで働かせていただくことになりました。色々な年齢の子ども達とかかわることとはとても大変ですが、学生のころに学んだことを生かして頑張ります。

また、何よりも子ども達のために動き、一緒に生活し、成長を見守るこ

とが自分の幸せです。その幸せを皆さんと共有していきたいです。分からないこともいっぱい、たくさん助けてもらうこともあると思います。よろしくお願ひします。

ホーム大地 升本 由美

昨年の 10 月よりライクホームはるかに就職し、8 カ月が過ぎました。当初は、子ども達が受け入れてくれるのか少し不安でしたが、笑顔で接してくれ仲良くなり、毎日楽しく過ごしております。

子どもたちが心から安心して生活していけるためのお手伝いができるように頑張りたいと思います。

ホーム大海 末廣 理江

私はこれまでの保育園勤務の中で日々、未満児の子どもたちと触れ合い楽しく過ごしておりましたが、「ライクホームはるか」のことを知り、一念発起して転職を決めました。

ホーム長から「今までの経験を活かしながら小・中・高生の子どもたちとも時間をかけてじっくりと関わってください。」とご指導いただきました。

毎日の生活の中で、子どもたちに寄り添いながら家庭に近い養育が実施できるよう子どもたちの成長を見守り、頑張つて行きたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

ホーム大空 横山 恵美

この 4 月より、ライクホームはるかでお仕事をさせていただくことになり、ホーム大空での生活も 2 カ月が過ぎました。初めは慣れない生活と幅広い年齢の子ども達との関わり方に戸惑いや不安を感じることもありました。しかし、ホーム長をはじめ職員の方々の温かいご指導をいただきながら、今は子ども達の日々の成長や無邪気な笑顔を見ることができとてもやりがいを感じています。

先日、ホームの子が通っている小学校の運動会に参加しました。ホームでは見たことのない表情をたくさん見ることができ、大変うれしく思ひました。そしてお昼には「おいしーい！」と言って笑顔でお弁当を食べる姿を見て、改めて子ども達と出会えたことに感謝の気持ちを抱きました。

ライクホームはるかの子ども達は

素直で可愛らしい子ども達ばかりです。「おはようー」と気持ちの良い朝の挨拶から始まり、子ども達が当たり前前の生活を当たり前前に送れるよう、そしてうれしいときには一緒に笑い、壁にぶつかってしまった時には一緒に共有して乗り越え、子ども達の大切な時期を一緒に過ごしていきたいと思っています。まだまだ分からないことも多く未熟な私ですが、自分ができることを精一杯頑張っていくたいと思っています。どうぞよろしくお願いたします。

はるかこどもの相談センター 武田 光真

このたびは、自身の子育てが始まったことを機に、東京都から妻の故郷である山口県へと引っ越してきました。児童福祉に携わりたいという念願が叶い、4月から児童家庭支援センターである『はるかこどもの相談センター』にて相談員をしておりま

す。以前は、NPOでのまちづくり、アフリカでの環境教育、ボランティアセンターでの市民活動の推進、児童養護施設での指導員などを行ってきました。それらの経験を生かし、

子育て中の家族が笑顔でいられるために、子どもたちが子どもらしく、のびのびと過ごせるために、尽力していきますのでよろしくお願いたします。

また、そのためには地域に根をおろし、地域の方々や各関係機関の方々と良い関係性を築いていきたいと考えています。山口県のことをもっと知りたいです。ぜひ、飲み誘ってください。お待ちしております！



【ご寄附】

- ・ 佐藤 文様
- ・ 竹中 辰夫様
- ・ 岩国ライオンズクラブ様
- ・ NPO法人ふるさと山口経営者フォーラム様
- ・ 株式会社ビジネス様
- ・ 株式会社 向学社
- ・ 宇部進学教室様
- ・ 社会福祉法人 山口共同募金会様
- ・ 伊陸・日積地区 民生児童委員協議会様
- ・ 一食地域貢献プロジェクト様

【ご寄贈】

- ・ 末弘 恭一様

- ・ 高瀬 範夫様
- ・ 石本 みさお様
- ・ エリー ベナビデス様
- ・ 松田 洋子様
- ・ 蔵元 英二様
- ・ 藤谷 清美様
- ・ 尾崎 龍三様
- ・ 齊藤 覚博様
- ・ 林 聖文様

- ・ 株式会社 街づくり岩国様

- ・ 全国シヤンメリー協同組合様

- ・ テキサス岩国店様

- ・ 国際ソロプチミスト岩国様

- ・ 全労災 山口推進本部様

- ・ 日本鏡餅組合様

- ・ ほっともつと様

- ・ MALS-12様

- ・ 岩国市本郷町のみなさま

- ・ (公財) 毎日新聞西部社会事業団様

- ・ (公財) 中部財団様

- ・ 岩国市地方卸売市場様

- ・ コストコホールセールジャパン株式会社様

- ・ ばんのきもち のび様

- ・ 宝師ヶ苑様

- ・ 上中農園様

- ・ アサヒ飲料株式会社様

- ・ 有限会社 ダスカジャパン

- ・ クウアモテック様

【ご招待】

- ・ 結壁音様
- ・ シンフォニア岩国様

この他、地域及び匿名の方々より、寄附金・お米・お野菜等をたくさんいただいております。誠にありがとうございます。

【平成29年9月16日〜平成30年3月31日まで】



ありがとう
ございました

